



乾燥野菜研究所 Sumi Lab



活動紹介

防災 × 地域 = 乾燥野菜。北海道の防災力向上を目指して乾燥野菜を作ってきました。乾燥野菜は軽い、長持ち、手間いらず。防災だけではなく日常でも使い勝手が良いので、防災食としてだけでなく日常で常用できるため乾燥野菜を使ったレシピの開発も行う。

2019年総括

今年は継続の年になりました。防災は一時語り掛けるものではなくひたすら働き掛けることが肝心で、日々の備え、いざという時の知識が重要になります。仮に被災した時、自分の避難場所は、持って行く物は、どんな服装がいいのか、他にも考慮しなければならないことが沢山ありますが、被災してから揃える、蓄えるのでは遅いため日々の生活で密かにでも意識しておくことが大切で継続ができた年でした。（寺ちゃん）



目的・背景

2011年の東日本大震災では、被災者の避難時の食事が炭水化物に偏るなどの課題がみられた。

この課題を解決するために設立された澄川乾燥野菜推進協議会は、長期保存が可能な乾燥野菜の製造・販売に取り組んでいる。

本プロジェクトチームは乾燥野菜の普及に取り組むほか、乾燥野菜を使用したレシピ開発などを行い、乾燥野菜がより身近なものとなるよう事業を展開する。

2018年は北海道でも大きな地震により被害を被った。北海道の一部地域だけでなく、全域に乾燥野菜を普及することを目的として活動している。

実施内容

活動・回数・参加人数

- ・澄川わくわく広場 10回 のべ 39名
- ・澄川ちょい飲み 2回 のべ8名
- ・澄川地区自主総合防災訓練 1回 4名
- ほか
- ・澄川わくわく広場参加者 669名
- ・乾燥野菜を使用した簡単に作れるレシピのWEB掲載

成果

三年前から開始したわくわく広場が通年で実施となり、今年も多く参加者に対して乾燥野菜の普及をすることができた。

乾燥野菜を使用したレシピ開発を幾つか実施しウェブに記事として投稿した。

また、今年には事業計画にてezorock事務所の防災拠点化を明文化していたので、事務所の乾燥野菜の備蓄を去年は数では表さなかったが今年ではローリングストック法により事務所での備蓄量を明確化し、ezorock事務所の防災拠点化に努めた。

声

ボランティア (20代男性 学生)

乾燥野菜を通して参加者の方々とも交流できてとても楽しかったです。澄川わくわく広場はアットホームな雰囲気、参加者の年齢層の幅の広さにもとても驚きました。

ボランティア (20代女性 学生)

澄川わくわく広場と澄川ちょい飲み2019のボランティアに参加しました。乾燥野菜×防災によって、地域の交流の場が作られていて、地域活動における乾燥野菜の可能性を感じました。



販売している乾燥野菜



札幌新陽高校で行った乾燥野菜を使ったカレーの提供



澄川わくわく広場の乾燥野菜料理



Sumilabで作っている乾燥野菜